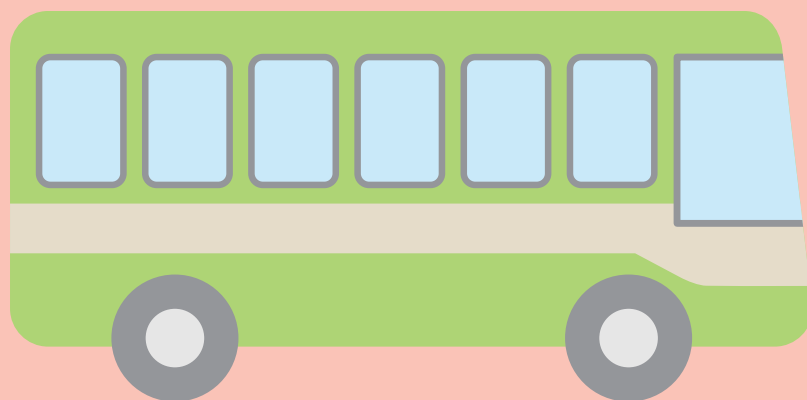


介護従事者における 新型コロナウイルス 感染対策

高齢者・実践編・通所版



はじめに

この教材は、動画「介護従事者における新型コロナウイルス感染対策（実践編・通所版）」と併せて活用していただくことを目的に作成しました。介護に携わる皆さんが新型コロナウイルスの感染対策を正しく理解し、感染予防に努めてください。なお、この動画と教材は、令和3年3月現在の国の方針等に基づいて作成していますので、ご注意ください。

目次

1	通勤	1
2	出勤後	2
3	職員間の注意点	3
4	送迎	4
5	介助にあたり	6
6	整容	7
7	食事介助	8
8	口腔ケア	10
9	排泄ケア	11
10	リハビリテーション、レクリエーション	12
11	入浴、洗濯	13
12	室内環境	14

1. 通勤

① 体調チェック

出勤前は必ず、検温しましょう。発熱や風邪の症状、息苦しさ、倦怠感、味覚や嗅覚の異常などがある場合は、職場に相談し、出勤を控えましょう。

確認事項

発熱 風邪の症状 息苦しさ 倦怠感 味覚や嗅覚の異常

② 服装

通勤時と勤務時の服装は必ず分けます。外部からウイルスを持ち込まないために徹底しましょう。勤務時の服装は定期的に交換し、清潔にしましょう。

通勤時



勤務時



③ 帰宅時

帰宅した時はすぐに手洗いをしましょう。うがいや洗顔も効果的です。



帰宅後すぐに手洗い、うがい、洗顔

④ その他の注意点

- できるだけ他人との接触を避ける
- 通勤途中は、不要な立ち寄りをしない
- 公共交通機関で通勤の場合はマスク着用



2. 出勤後

① 検温、体調チェック

職場でも、検温と体調チェックを徹底することで安心して接することができます。



職場についたら、検温、体調チェック

② 手洗い、または消毒

職場に着いたら、手洗いをしましょう。近くに手を洗う場所がない場合は、アルコールで消毒します。



流水でしっかり手を洗う

③ 更衣

更衣室では、職員同士が密接にならないよう、人数制限や空いている居室の利用、時差出勤などを取り入れましょう。マスクを外して会話するのは控えましょう。



人数制限や空いている居室利用、時差出勤で密を回避



更衣室では密になりがち

3. 職員間の注意点

① ミーティング、申し送り

職場では必ずマスクを着用し、飛沫対策を行います。



適度に距離を取って着席

② 情報共有のポイント

ポイントを押さえて、利用者の情報共有を図ります。感染が発生した際に必要なため、体調だけでなく、対応した職員名などを記録します。

情報共有のポイント

- 利用者の体調
- 対応した職員を記録
→感染が発生した際に必要

③ 共有時に感染に注意すべき備品

職員間で共有する備品も注意が必要です。筆記具やパソコン、タブレット等は定期的に消毒しましょう。



④ 休憩時

職員の休憩時も密になることを避けましょう。特に食事の際は、向かい合うことは避け、会話は控えましょう。

食事等の休憩時

- 休憩室で密になることは避ける
- 向かい合っでの食事は避ける
- 食事をする際は1.5m～2m離れる
- 会話は控える
- 会話する際はマスクを着用する

4. 送迎

① 送迎前の消毒

送迎前には、送迎車両を消毒します。アルコール消毒液でドアノブや手すりなどを消毒します。



送迎前には、必ず車両を消毒



複数の利用者が触れる手すりは念入りに消毒

② 座席配置

送迎車内では座席を一つ空けて座るなど、乗車人数を減らして対応します。そのため、送迎回数が増えますので、時間にゆとりをもって送迎計画を立てましょう。

- 乗車人数を減らす
- 送迎回数が増えるので、時間にゆとりを持った送迎計画を立てる



③ 車内の換気

送迎時には、窓を少し開けて走行することで、車内の換気を行って下さい。

4. 送迎

④ 利用者の乗車

利用者が乗車する前に、検温と手指消毒を徹底します。車内では、マスク着用はもちろん、会話もできるだけ減らしましょう。



利用者が乗車する前に検温・手指消毒をする

⑤ 発熱時の対応

乗車前の体調確認の際に発熱症状がある利用者がいた場合、事業所へ連絡し指示を受けましょう。

利用者の発熱時の対応例

検温時に発熱を確認



事業所へ連絡



指示を受ける

事業所でルールを設定し、送迎時に連絡先などを携行する

⑥ 事業所到着後

事業所についたら、再度、利用者に手指消毒をしてもらい、バイタルチェックをします。特に、咳や呼吸の状態を確認します。



手指消毒



バイタルチェック

5. 介助にあたり

① 移動介助

移動介助の際は、飛沫がかからないよう正面に立つのは避け、側面から支えるようにします。他の利用者の介助をする際は、手洗いしましょう。



可能な限り、横から介助する



飛沫がかからないよう、正面に立つことは避ける

6. 整容

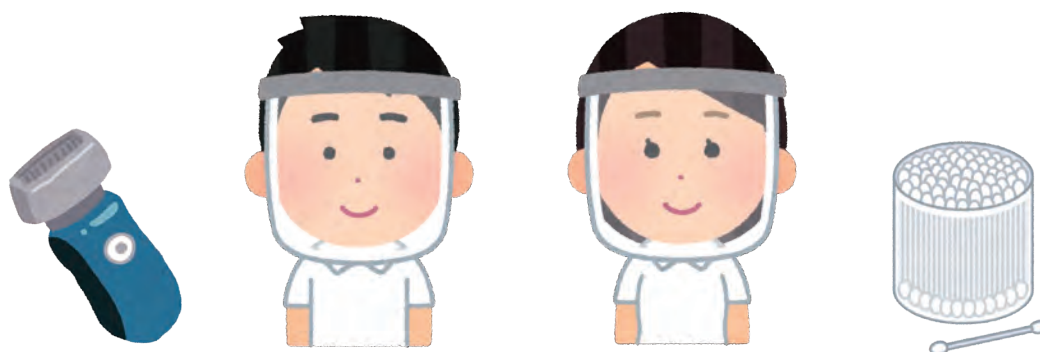
① 耳・鼻掃除

耳や鼻を掃除する際は、顔同士が近づき、感染リスクが高くなるため、マスクに加えフェイスシールドをしましょう。マスクによって鼻と口から、フェイスシールドによって目からのウイルス侵入を防ぎます。使用後は、ビニール袋に入れて、きちんと密閉して廃棄します。



② 髭剃り

髭剃り介助の際も、顔同士が近づき、感染リスクが高くなるため、マスクに加えフェイスシールドをしましょう。



フェイスシールドの表面は定期的にアルコール消毒しましょう

7. 食事介助

① テーブル配置

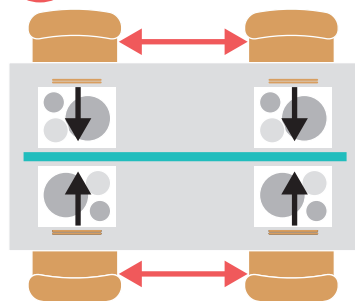
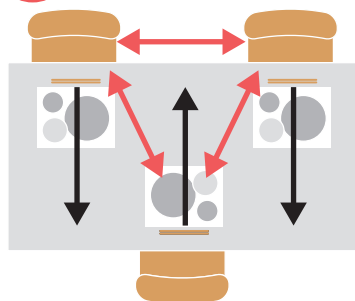
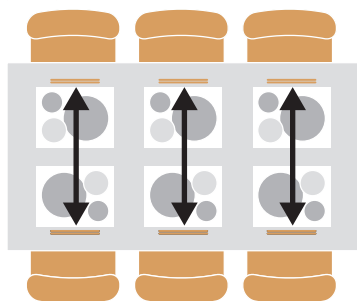
利用者が一斉に集まる食事は、密になりがちです。時間をずらすなどして、可能な限り避けましょう。テーブルや座席は、利用者同士が向き合うのを避けて配置します。食事スペースに余裕がない場合は、アクリル板などを設置し、飛沫が広がらないようにします。

食事の配置

- 利用者同士が向き合わないようにする
- 食事をする際は1.5m～2m離れる
- 向き合う場合は、アクリル板などで仕切る
- 食事中に大きな声を出すのは控える



アクリル板で仕切る



アクリル板

↔ : 1.5mから2m離れる

② 食事運搬

調理室から食事を運ぶ際には、食事に飛沫がかからないよう、配膳車のカバーは必ずかけます。



7. 食事介助

③ 配膳

利用者へ配膳する際は、飛沫がかからないよう、利用者の後ろから配膳します。他の利用者の前を通して配膳しないようにしましょう。



必ず後ろから配膳



飛沫がかかる可能性があるため、前から配膳しない

④ 食事介助

食事介助は、飛沫がかかりやすいので、正面から行わないようにします。むせやすい利用者の場合は、事前にタオル等を用意し、むせた場合は利用者の口を覆いましょう。別の人の食事介助に入る際は必ず手洗いまたは手指消毒を行います。



利用者の正面を避け、横に座り介助



むせた場合は、事前に準備したタオルで口を覆う

※服薬介助時も正面から介助しない

8. 口腔ケア

① 歯みがき

口腔ケアは、感染リスクが高い介助です。必ず、手袋とマスク、フェイスシールドを着用します。介助時は、利用者の正面に立たず、ブラッシングし、飛沫が顔などに付着しないよう注意しましょう。利用者の顔や口の周りを拭いたティッシュペーパーなどは、唾液がついているので、手袋をしてビニール袋に入れて密閉し、廃棄します。1ケアごとに手袋を交換するのが望ましいですが、難しい場合でも、違う人のケアに使いまわすのはやめましょう。



正面に立たず、ブラッシング

② 歯ブラシの保管

歯ブラシ同士が接触すると、ウイルスが広がる可能性があります。個別、もしくは間隔を空けて保管しましょう。



歯ブラシ同士が接触する保管法は避ける

③ 入れ歯の処理

入れ歯を洗浄する際は手袋だけでなく、マスクとフェイスシールドも着用します。洗浄中に水しぶきが飛んでくるのを避けます。

入れ歯の処理のポイント

- 洗浄する際は手袋だけでなく、マスク、フェイスシールドを着用
- 洗浄中に水しぶきが飛んでくることで感染リスクが生じるので注意



9. 排泄ケア

① オムツ交換

オムツ交換の際は、手袋をしっかりとしましょう。



② 排泄介助

排泄物を処理するなど排泄物に直接触れない際もマスクと手袋は着用します。濃厚接触者など感染の可能性のある利用者は、使用するトイレを別にしましょう。

排泄介助の注意点

- 排泄物に直接触れない場合でも、マスクと手袋を必ず着用
- 濃厚接触者など感染の疑いがある人は、別のトイレを使用



③ トイレの清掃・消毒

トイレは定期的に清掃し、アルコールクロス等で消毒します。



トイレは定期的に清掃し、アルコールクロス等で消毒

10. リハビリテーション、レクリエーション

① リハビリテーション、レクリエーション時の注意点

リハビリテーションやレクリエーション時は、密になりやすいので注意が必要です。互いが向き合わないよう、両手を広げて手が触れない距離を保ちましょう。

注意点

- 互いが向き合わないよう配慮
- 距離をとっていてもマスクを着用

② リハビリ機器などの消毒

リハビリ機器は複数の人が利用します。一人が終わるごとに消毒します。機器や場所により消毒方法が異なるので、説明書などで確認しましょう。



複数の人が利用する機器は、一人が終わるごとに消毒



消毒を行う際には手袋を着用するのが望ましい

11. 入浴、洗濯

① 入浴介助

入浴前は利用者の体調確認をし、体調不良であれば清拭へ変更します。入浴介助者は、マスクとフェイスシールドを着用のうえ、マスクはできる限り不織布のマスクを使用します。マスクは濡れると防御効果が下がるので、注意が必要です。また、入浴する人が代わるごとに、しっかりと換気しましょう。

入浴介助前の体調確認のポイント

- 問題があれば、原則、清拭に変更
- 入浴介助者はマスクを着用
- できる限り不織布のマスクを使用

入浴介助時の注意点

- マスクは濡れやすいため、注意が必要
- 入浴する人が代わるたびに換気する

② 浴室清掃

人がよく触れる水道の蛇口、シャワーヘッドなどは、水気を取り除いた後、アルコール消毒液で拭きます。浴槽の清掃は、通常通りでかまいません。



人がよく触れる蛇口はアルコール消毒液で拭きとる



シャワーヘッドの水分をふき取り、消毒



車いす座面などはアルコール消毒液で拭く

③ リネン・衣服の洗濯、消毒

リネン、衣服は通常の洗濯でかまいませんが、感染者が発生した場合には、十分に洗い流して下さい。

基本的に通常の洗濯で対応可能

感染者が発生した場合には十分に洗い流す

12. 室内環境

① 換気

閉鎖した空間では、ウイルスがエアロゾルとして空気中に残るので、定期的に換気します。夏場や冬場は室内の温度変化に注意が必要です。2方向の窓を少し開けておくなど、介護現場に適した方法を選択しましょう。



定期的に換気

換気の方法

- 定期的に窓を開ける
- 2方向の窓を少し開ける
- 換気扇などを使って換気する

まとめ

- 基本は1ケア1手洗い
- 施設内に「持ち込まない」ように
- 感染を「拡げない」ように
- 日ごろからの感染対策の意識づけを

介護従事者における新型コロナウイルス感染対策 〈高齢者・実践編・通所版〉

【監修】

九州大学病院グローバル感染症センター長 下野 信行
